

(様式)

第 5 回かわにし市民会議 議事メモ

班	2 班「子育て・教育の充実」
コーディネーター	石井 聡
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	寺田義一(部会員)
日時	2019 年 9 月 14 日(土) 13 時 00 分から 16 時 00 分
場所	川西役所 6 階 議員協議会室
その他	参加者数 13 名

趣旨・概要

- ・市民会議からの提案(案)について内容の確認、文言の加筆・修正などの整理を行った。
1. 全体の構成について
 2. 提言タイトルの変更について
 3. 提言 4 いじめ問題について

総括

- ・本日行った文言の加筆・修正などの整理は部会員にて行い、コーディネーター確認のうえ提言としてまとめ、報告する。
- ・10月16日(水)に推進会議という会議があり、2班の討議の様子を伝えていただく発表者を決めたい。発表者は提案の内容説明というより、この班の熱というか、思いを伝えていただきたい。長瀬さんに決定(可能であれば西田さんも)

協議の流れ

【導入】

- ・コーディネーター・石井氏より本日の趣旨について説明。
- ・寺田部会員より市民会議からの提案(案)の内容について説明。

【市民会議からの提案(案)の内容に係る説明】

- 提案 1 子どもたちが川西市で育ったことに誇りを持ち、将来の夢を描くきっかけとなるような教育を行う
- 提案 2 学校・家庭・地域が連携協力し、教育に携わる風土・体制を整える。
- 提案 3 子どもの学力向上を目指し、地域で学習支援を進める仕組みを構築する。
- 提案 4 いじめゼロを目指し、学校と地域が協力して取り組む体制をつくる。
- 提案 5 子育て世帯への産前産後ケアとして、行政・地域が協力し、「産前」からのサポート体制の充実を図る。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

提案6 産後の子育て世帯に対するサポート体制の充実を図る。

提案7 子どもだけでなく、保護者も交流できる場を提供する。

提案8 子育て中の世帯(夫婦とも)に教育・子育て情報が伝わる仕組みをつくる。

提案9 個人、地域、行政すべての人が情報を共有できる環境をつくる

子育て、教育等にかかわりやすい環境

提案10 地域に誰もが気軽に過ごせる場所をつくる 多世代交流

・以下、寺田部会員より説明

市) ・いままで話し合ってきた内容を提案書(案)としてまとめている。

・提案は全部で10個。

・提案1~8は議論いただいた内容と市民会議の際に書いた改善提案シートを元に整理したもの。

・市民会議における参加者の意見を踏まえ、ニュアンスが違うところは訂正をいれているが、基本的には改善提案シートに書いた内容をそのまま記載している。

・提案9、10はこの2班に参加している部会員が検討し、まとめたものである。同じテーマについて部会員でも話し合いを進めており、市民会議での議論の内容なども踏まえて検討を行った。部会員の間でも情報共有と場作りという内容が大切だという話になった。市民会議での議論を包括する部分があるので提案の仕方は違うが、参考として9と10に挙げている。

【1.全体の構成について】

参) 提案項目が10は多すぎる。4つ程度にまとめた方がいいのではないか。

参) 提案3.4については、学力向上についてもいじめ問題解決についても「地域の協力が必要」ということで、求めている内容が重なっていると思われる。地域との連携という部分を切り口にすると、1つにまとめられるのではないか。

参) 提案3.4は分けた方がいいと思う。学力といじめというのは、別のこと。いじめを地域で解決するということは難しいと思う。自分もいじめられた経験があるが、いじめに関して地域が力になれるのは一部だけだと思った。

参) 提案2.3をまとめ、提案4については分けた方がいいと思う。提案5.6はまとめてもよいと思う。

参) 提案3.4を統合と言ったが、趣旨としてはまとめた方がいいという意見が言いたかっただけなので、提案2.3をまとめ、4はそのままという意見については他の参加者の意見を聞き、納得している。

参) 順番として1.掲げる提案像、2.就学前の子どもを育てている家族へのフォロー、3.就学後の小・中・高の子どもをもつ家族へのフォロー、4.お母さん、子どもも含め、追い込まれた人たちが駆け込めるフリースクールなど、追い込まれた時でもいろいろな解決手段があるというのを出すという感じで分けるのもいいのではないか。また子育て・教育とくくると範囲が広くなりすぎるので、何か軸とするのであれば、子どもが

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

生まれてからの年齢順で分けていくといいのではないか。議題から分けると最終的にどこでも関連してしまうので分けにくいと思った。

コ) 抽象的なものを最初に出して、後ろに具体的なものを並べるというやり方もあると思う。

参) 一度、現在の時点での整理を行いたい。

コ) 提言 1 は残し、提言 2.3 統合、提言 4 はそのまま、提言 5.6.7.8 をまとめ 4 つとする。そういう意味では提案の 8 はベース部分だととれる。情報の共有はサポート体制の 1 つの手段と考えられるので、まとめることは可能かもしれない。ただ、まとめすぎると個人・地域・行政の表が大きくなりすぎ、見にくいかもしれないと懸念する。文言が重なっているところは集約してもいいかもしれない。

参) 提言 5.6 セット、提言 7.8 セットはどうか。

参) 提言 1 提言 5.6.7.8 提言 2.3 提言 4 の並び順はどうか。

参) 提案 1 のタイトルは格上げしてはどうか。

コ) 最初は大ビジョンがあって、それ以降は年齢順ということ。2 班の考えとして、子育ては産前からスタートしているポイントがはっきりするということですね。

参) 提言 1 の内容をみると、小・中学校の授業の中での取組について挙げているので、大ビジョンとしてしまうのは違うのではないか。

コ) 大ビジョンではなく他の提案とトーンを揃えるようタイトルを変え、順番を学校教育の並びに移すという意見ですね。

参) シートの書き方が一元的になっているものをツリー形式に 1 段掘り下げのような形で示すのはいけないか。目次だけ削減し、中身は変わらないというイメージで話をしていたので、提案内容を無くしてしまうということはあまり話さなくていいのではないか。

コ) 提案という形なので、資料の形式はこのままでいきたいと思う。世代順に変えるということも、中のコンテンツを残すということも問題ないが、ツリー形式に 1 段掘り下げた際にぶら下がる中見出しとすると、中身出し部分も提案という形で出さなければならないので、分かりにくいかもしれない。いまの提案でいうと、各項目の提案内容の部分に記載するなどの方法が検討される。

参) 提案 5.6 は別の方がいいのではないかと思った。5 は子どもが生まれる前、生まれてからの家庭での子育てに対して、行政や地域がどういう風にケアしていけるかということ提案しているが、6 は出産後、家庭で子育てするうえで、地域とのかかわりをどう持っていくかという提案だと思う。主張したいことはそれぞれで別だと思うので、まとめない方がいいと思った。

参) どちらかというとなら 6.7 をくっつけるべきということ。

コ) 提案 5 提案 6.7 提案 8 提案 1 提案 2.3 提案 4 の順というのが最新の状況。子どもの年齢順に並び替えているイメージ。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

- 参) このままのタイトルで1を4にもっていくといきなり抽象度が高くなるので、1は1でいいのではないか。教育という言葉はどう解釈するかは難しいが、生まれた時から教育は始まっているという考えはどうか。
- コ) 提言内容に生まれてからの教育の話はないので、その解釈は難しいのではないか。
- 参) 提言1のタイトルについて「子ども達が川西市で育ったことに誇りをもち」「将来の夢を描ききっかけとなるような教育を行う」の2つに分け、前半が大ビジョン、後半は教育に組み込むのでどうか。
- 参) 教育という言葉がひっかかっている。教育というから学校のイメージがつくのではないか。2つの言葉に分けてしまうのは話があっちこっちにいつてしまうので、よくないと思う。
- 参) 5.6.7.8は全部、子育て世帯に対する親の問題。そういうサブタイトルもつけられるのではないかと思った。大テーマが教育となるのであれば、そこに子育て支援が入ることに違和感がある。
- 参) 1の中身について、他のところにまとめてしまえばいいのではないか。
- コ) これまでの会議で市民のみなさんからいただいた意見をまとめた後に、タイトルをつけているが、タイトルが大きすぎて大ビジョンのように見えているだけだと思われる。内容はだいたい小・中学生へ市としてやっていくことが書いてあるので、教育という言葉を外すのは難しい。例えば提案1の文面を、提案内容からとって「子ども達が生まれ育ったまちに愛着がもてる教育を行う」などにすれば適当ではないか。
- 参) タイトル1の中身をみると個人・地域・行政のやることが、学校のことしか書いていないので、いまからこれを全体に広げるといのは、收拾がつかない気がする。意見として出てきている提言の中身に合わせてまとめていった方がいいと思う。
- コ) 1は学校教育のことしか書いていないので、限定してもいい気がする。
- コ) 市民会議の場なので、必ずしも難しい言葉を使わないといけないわけではない。
- 参) 分けたままで、タイトルを短くするのもありだと思う。
- コ) 話を整理すると、1を少し学校教育に限定した書き方にする、2.3をまとめる、4は単独でいく、ここまではみんなの意識統一ができていると思う。5からの部分について、言葉も含め語尾が被っており、重複感があるので、まとめてもいいのではないかという話が出ている。
- 参) 提案5.6のところの個人が行うことを具体的に見ていくと、同じことが書いてあると思ったので、まとめられるのではないかと思った。提案の中で個人・地域・行政が行う部分について同じ意味を言っているところをまとめて減らせば、提案事態を減らさなくてもシェイプアップでき、重複感がなくなると思う。
- コ) そうみると、8も重なってくるころはある。
- 参) 5.6は言いたいことのニュアンスが違うので、分けた方がいいと思った。まとめてもいいが、1つの提言に言いたいことが2つあるのは分かりにくいと思う。川西市は子育てに関するイベントも多くやっているという実績があるので、もっとそこをアピー

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

ルしてもいいと思う。笑顔で子育てというテーマで5.6.7.8はまとめられるかもしれないが主張したい、埋もれさせてほしくないという想いがある。

- 参) 市民会議の意義は、市民のみなさんの生の声を推進会議にぶつけるということなので、提言が綺麗に整っていることより、我々の思っていることが伝わるのが大切だと思う。伝わりやすいようにシンプルにしていこうという意見も大切だと思うが、提言が個別に分かれている方が目に留まりやすいという考え方もある。合意形成の時にまとまりきらないものは、無理にまとめなくていいと思う。
- コ) 項目の整理よりも、言葉を変えることの方が大切ということ。
- 参) つまり、5.6.7.8の提言がまとまりきらなくても、議論の結果まとまらないという結論となったという事実があるので、無理にまとめなくても、それはそれでいいと思う。
- 参) 5産前産後のサポート、6は乳幼児の子育て中のサポート、7は乳幼児だけじゃなくみんなのサポートという雰囲気ですて独立させたものにしたらいと思う。
- 参) 結局どうして欲しいかというと、笑って欲しい、地域がもっと参加して欲しい、お母さんの負担が大きいので、家族がもっと参加して欲しいなど、目指すところのイメージをタイトルにもう少し入れてもらい、それぞれの抱える悩みを川西市はどう改善していこうと思う、個人がどう取り組んだらいいと思うという風にまとめたらいいと思う。
- コ) 5は制度的な話であり、6以降は制度などがなくても地域などで開催する場所があればできるという話だと思う。この部分は無理にまとめずに、言葉の表現を変えることによって改善していくというところで、まとめたいと思う。

【2. 提言タイトルの変更について】

- 参) タイトルに同じような単語が入っていることが、同じような提言だからまとめてしまおうと思う原因だと思う。「サポート体制の充実を図る」「協力」などの単語を変えた方がいいと思う。
- 参) 何を言いたいのかの主題をもっと明らかにすればいいのではないかな。
- 参) 1つ1つの提案が長くなると見にくくなるので、1つ1つの提案を誰もが分かる簡潔な文章に変えてはどうか。
- 参) 簡単にいうと「子育てが楽しい川西」ということが言いたい。もっと端的にわかる表現になればいいと思う。提案書なので堅いイメージになりがちだが、何を提案したいかというと、川西市でお母さん達に笑顔で子育てを楽しんで欲しいことが言いたい。

【3. 提言4いじめ問題について】

- 参) いじめを減らすという中身のところについて、地域が連携するといったところに違和感をもった。いじめというのは加害者側の問題が重要だと思う。いじめ問題に関して地域との連携が入った理由はなんだったか。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

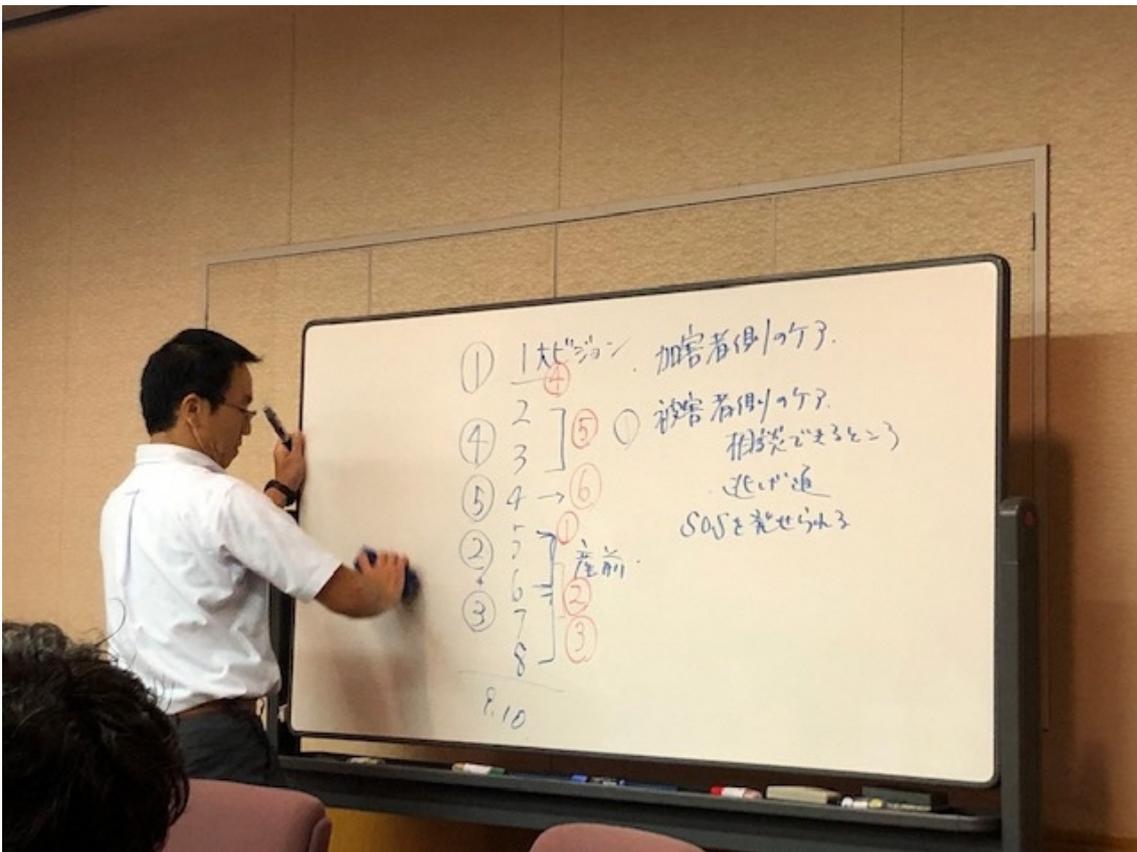
- コ) 第4回でナビゲーターの宮崎氏が来ていただいた時に出た話の時に、いじめの加害者側に対し、いじめをしてしまうようなストレスを地域が介入することで減らした結果、いじめが減るといった説明があったため。地域と連携をするということは、子ども達を見る目が増えるというような、警察のようにチェックをするというわけではなく、その子が輝く場所をつくるという話だった。
- 参) いじめを受けた経験がある人が、学校などで講演をするのはいいのではないかと。いじめはどのようなもので、どういう気持ちになったかという実体験を話すことで、いじめをしている人にも考えてもらえるきっかけになるのではないかと。情報を公開するというよりも、実際に体験した人の言葉の方がいいと思う。なので、地域と行政が連携するということが大切だと思った。
- コ) 個人、地域、行政の役割分担からすると、学校(行政)が地域の人を活用するという書き方になると思う。地域の方は学校に協力していくというイメージになると思う。
- 参) 提言テーマについて、もともとの意見が出た「いじめをしてしまうようなストレスを減らす」ということに地域が協力するというのは、このタイトルからはイメージしづらい。
- コ) 意見をまとめ、修正していくことで「いじめゼロを目指し、学校と地域が協力して取り組む体制をつくる」というタイトルになったが、ストレスを抱えている子どもを減らすというニュアンスは読み取りにくいことから、提案の文章を修正した方がいいかもしれない。
- 参) いじめは子どもの世界だけではない。いじめている子の気持ちを考えても答えが出ないと思うので、いじめが起きてしまったときに死を選ばなくて済む、次の選択肢があるという点を見せてあげられる環境をつくるのが現実的だと思う。そういう場をどう提供できるかを考えるべき。
- 参) 他市に住んでいる方が「川西市に行ったらこんなにいい校区がある、引っ越してみよう」と思える地域になって欲しい。お金があれば塾や私立の学校に行かせたらいいという考えもあると思うが、個人的には公立の学校に期待する気持ちがある。ただ、学校(先生)にばかり頼ると無理があると思うので、地域、個人が協力できることは、協力していきたい。いじめについては、いじめが起きたときに学校がどう取り組むかということが大切だと思う。
- コ) 少し整理をすると、学校はいじめが起きた時にどういう対応をするのか、保護者でなくても知りたいという話からいじめに関する情報公開の話が出たと思う。その話からすると、いじめ事例を紹介するなど積極的に情報を公開するという表現は、適切ではない。個別事例の紹介ではなく、概略的な話ということであれば、書き方を変えるだけで、気になっている部分の解消できる気がする。
- コ) 加害者側と被害者側の問題の話、学校が地域と連携し、子ども達のストレスを減らすことで結果的にいじめがなくなるというナビゲーターの宮崎さんの話は4のいじめゼロを目指しというところから除いて、2.3を統合したところで結果的に4につながるという整理が適切ではないかと思った。いじめについてはあくまでも、事象が起きた

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

時にどう対処するかということでまとめ、学校・地域が安心の場になるという2.3と4の整理をした方がまとまりがいいと思った。2.3は学校が地域に開かれることで学力やそれ以外の部分もより良くなる。より良くなると、すべての子どもにとって心地いい環境になるので、理想的な話ではあるが、いじめは減るはず。4は起きることは起きるので、起きた後に何をするか、あるいは起きる前に、いじめが起きた時に学校はこうしますという指針を示すことによって、その手続きにのっとなって学校は動かないといけないし、学校が動かなければそれ以外の機関が動くという切り分けで、まとめていきたいと思う。

ホワイトボードの写真



参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者